

事務事業名	農業担い手育成支援事業交付金	所属部	農林振興部	所属課	農政課	
総合計画体系	政策名	(V)挑戦し活力を産みだすまち<産業>	所属G	担い手支援G	課長名	高田浩二
	施策名	(36)農業の振興	担当者名	今岡貴博	電話番号	0854-40-1051
	目的:対象	市内の農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。	(内線)	3703
	基本事業名	(109)担い手の育成・確保	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 3 0 0 2 項 目 中事業 中事業名 0 5 2 5 7 4	農業振興事業 農業担い手育成支援事業交付金	
目的:対象	市内の農家	意図	農業の担い手を育成する。			

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度～)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (24 年度～ 31 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
雲南市で新たに就農を目指す方を対象に、農業研修期間中の生活費支援を行う。
生活費支援 月額12万円 ※市内在住者は9万円 子ども連れの場合加算3万円/月 受入農家指導料 月額3万円
研修期間 自営就農:3月以上2年以内 雇用就農:3月以上1年以内
また、自営就農を希望する場合は就農に必要な経費の1/2以内(100万円上限)を準備金として交付する。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	28年度実績(28年度に行った主な活動) 市内での就農希望者の募集 ・農業研修中及び研修後の方向性について支援・検討を行った。 ・研修生4名	29年度計画(29年度に計画する主な活動) 市内での就農希望者の募集 農業研修中の支援 就農へ向けての支援				
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
ア	就農サポート事業対象者	人	3	3	4	4
イ						
ウ						
エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
	就農希望者	ア	市内在住者	人	0	1	1	1
		イ	市外からのUIターン者	人	3	2	3	3
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)		
担い手育成(新規就農者数)	ア	認定新規就農者(自営のみ)	人	1	3	4	5	
	イ	新規雇用就農者	人	1	0	3	1	
	ウ	認定なし自営就農者	人	0	0	0	-	

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)	
農業経営や農業技術の修得を行う研修期間中の生活費支援を行い、就農に向けて定着を図った。 研修生 実人数 4名 5,880千円(指導料含) 準備金 1名 1,000千円	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円	3,700	700	2,800	
		その他	千円		360	3,060	1,920
		一般財源	千円	643	487	1,020	5,350
	事業費計(A)		千円	4,343	1,547	6,880	7,270
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	1,318	1,368	650	
		人件費計(B)	千円	5,124	5,354	2,579	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	9,467	6,901	9,459	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
農業従事者の減少による耕作放棄地の拡大、担い手農家の高齢化、農村(集落)の後継者流出が急速に進展する中、農業振興という面だけでなく、地域振興の観点からも新たな担い手を育成する取り組みが必要である。	研修期間中の生活費支援により、農業経営や農業技術の修得を行うことができた。	新規就農者としてだけでなく、地域の担い手・後継者へと繋がる機会となった。 新規就農者の定着に向けて、関係機関と連携したサポートが必要。

事務事業名	農業担い手育成支援事業交付金	所属部	農林振興部	所属課	農政課
-------	----------------	-----	-------	-----	-----

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	農業従事者の減少、高齢化が進む中、就農者希望者に対し農業経営・農業技術の養成を行い、農業・農村の担い手を育成・確保することが必要である。農業振興という面だけでなく地域振興の観点からも定着に向けた成果向上の余地はある。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	事業を廃止した場合、農業従事者の減少、後継者不足が危ぶまれると同時に、農地の荒廃が加速することが危惧される。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒ (具体的な手段や類似事業名)	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない		類似事業として県定住財団の事業があるが、UIターン者を対象とした事業であり、現在の棲み分けを整理した推進が引き続き必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		農業研修期間中は収入が見込めないため、生活を行う上で必要な生活費支援は必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
D 公平性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		新たに農業を目指す方の多くは経験も少なく、関係機関が一体となったフォローアップが必要である。生活面・地域への溶け込み方など、移住に伴うフォローアップも必要となるため、削減の余地はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		制度上の制限はあるが市内外の方が対象となっており、公平・公正である
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価の 総括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		事業効果はあったが、就農・定着に向けて今後のフォローアップが必要である。
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり			

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
農業振興や担い手育成を図るため、今後も継続して事業を実施する必要がある。		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			